

港区立赤羽小学校

平成29年度 授業改善推進プラン

教育目標

- 自然を愛し、豊かな心をもつ子 (やさしい子)
- 進んで考え、創意工夫する子 (かんがえる子)
- 心も体も健康な、元気な子 (げんきな子)

学校経営方針 (学力向上に関わる要点)

- 基礎・基本の確実な定着を図り、個に応じた指導の充実に努める。
- 適切な評価を生かし、学力の向上を図り、学習への意欲・自信を高める。
- 評価や調査の結果や実態を生かした指導計画・授業の改善に努める。

昨年度の成果と課題

〔成果〕

- ・RASによる読書指導や読み聞かせを充実させることで朝の読書タイムが定着するなど本に親しむ時間が多くなり、読書を意欲的に行い読書量が増えた。その結果、物語の読解力が上がり、読書を通して自分の考えを広げたり深めたりできるようになった。
- ・漢字検定の全員受検(2月)を実施した。漢字検定合格に向け、毎日の家庭学習として漢字練習を繰り返し行うなど、家庭と連携して取り組んだことにより、多くの児童が合格し、より多くの漢字を書けるようになった。
- ・音楽や図工において楽しく表現・鑑賞できる教材を精選することに力を入れて指導した。音楽では、演奏を聴く態度が身に付き、互いの演奏や作品のよさを見付けようとする態度を養うことができた。また、友達の頑張っている様子を見て、「自らも頑張ろう」と、努力する児童が増えた。

〔課題〕

- ・授業で学習の仕方を理解し、できるようになる児童が増えたが「新しい学習を行うと前の学習を忘れてしまう」「解答を見直す力が十分に身に付いていない」「宿題をやっていない。」などの理由から正答率が上がらない。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○言語事項や計算の習熟を図り、基礎学力の向上を目指す。 ○読書活動の充実を目指し、読書タイムを週4回設定する。 ○ノーチャイムで活動する時間を取り入れ、時間を意識した学校生活の実現を図る。 ○夏季休業中に、課外学習を実施し、国語・算数の補足的な学習を行い、基礎・基本の充実を目指す。 ○放課後の時間を活用し、補習の時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際科では、週2時間の授業の充実を図り、英語による実践的コミュニケーション能力の育成を目指す。 ○算数科では、課題別学習や少人数指導を実施し、個に応じた指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校で培ってきた教育とリベリック・パソニック教育などの新たに加わってきた教育課題等を融合し「カリキュラム2017」の指導計画に則り、学習指導の充実を図る。また、本校の評価規準に基づいた評価活動を実施する。 ○授業改善推進プランで作成した、「授業の工夫」を2学期に全教員が実践し、学期末の振り返りを通して、授業力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度より校内研究の教科を体育科とし、教員の授業力向上を図るとともに、児童の体力を向上させ友達との関わりを深め、学級としての連帯感を強めていく。 ○ICT教育、人権教育、服務等に関する研修を随時実施する。 ○教員のキャリアプランに基づき、各教員に応じた研究・研修会への参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評議員による外部評価や児童・保護者による内部評価を行うとともに年間3回の学校評議員会で出された意見を参考に学校運営の改善に努める。 ○年4回の学校公開を実施する。また、日常の学習活動等にゲストティーチャーなどを積極的に招へいする。 ○スクールカウンセラーの活用や家庭との連携を通し、不登校、いじめなどの問題の早期発見、解決に努める。

具体的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ○全ての学年において、国語科の小単元「言語事項」に力を入れて計画的に指導を行う。計算は毎日の宿題等で習熟を図り、見直しを行うことを徹底させる。 ○登校後、8:25～8:40の15分間を読書タイムとし、月曜とマラソン以外の朝の時間を読書活動とする。 ○ノーチャイム(1・2校時・3・4校時の間)を取り入れ、時間を意識して学校生活を送ることができるようになる。 ○夏季休業中の4日間課外学習を実施し、国語(漢字を書く)・算数(計算+文章問題)の補足的な学習を行う。 ▲学年の実態に応じて放課後の時間に算数の補習学習(希望者)を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ネイティブティーチャーを中心に授業を進めるが、担任も日本語での補足や、理解が困難な児童に支援し、英語に慣れ親しむ時間を充実させていく。学級の実態に応じて、担任が中心となって授業を進める。 ☆家庭科が専科になったことにより、必要に応じて担任が補助に入り児童の指導に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆各教科においては、本校の評価規準を基に各教科の学習の評価を担任と専科で行う。また、学年の実態に応じて評価規準の見直しを行う。さらに、学校評価者の意見を参考に、評価項目の見直しや新たな評価項目を作成する。 ☆「授業の工夫」や「具体的な取組」を各学年で振り返る時間を設ける。よかった点は継続し、検討が必要な点は変更したり新たな授業改善プランを作成したりして児童の学力向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆体育の授業実践では、研究主題「児童一人一人に運動の楽しさや喜びを味わわせる体育指導の工夫」を念頭に置き、全学年が授業研究を実施する。毎回の授業研究会では、港区教育委員会指導主事等を講師として招き、年間7回の研究会を実施する。 ☆OJT研修として毎月1回(体育やアクティブラーニングなど主催者の得意教科や研修してきた内容を中心に)研修を実施する。また人権研修は毎職員会議後に人権教育プログラムを基に研修会を実施する。 ○夏季休業期間を中心に研修会への参加を促し各教員の経験に応じたキャリアプランの計画実践の場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部評価、赤羽小学校の保護者による学校評価、校内教職員の内部評価を行い、内部、外部からの双方の視点による改善を図る。 ○5月・6月・11月・2月の学校公開、7月・1月の授業参観、運動会・音楽会などの学校行事の機会に外部評価者や保護者・地域の方々に児童の学習や行事の様子を公開する。また、5月のセーフティ教室や終業式にはスクールサポーターによる交通安全やSNSに関する指導を実施する。 ○毎週火曜(区)水曜(都)のスクールカウンセラーが来校していることを家庭に知らせ、児童の相談を受けるとともに家庭の問題等を早期解決できるように努める。
--	---	--	--	--